

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	有害鳥獣駆除事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	産業経済部	課等名	林務課		包含する細々目	1	6	2	2	15	1	635	
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり												
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要							
		事業期間	S55	年度～	年度	関連計画 条例等						森林林業基本法、伊那谷地域森林計画、飯田市森林整備計画	

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	人工林	カモシカによる造林被害団地数(団地)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			9			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
人工林において、カモシカによる食害被害を防止する。そのために個体数調整(捕獲)を行う	カモシカ個体調整頭数(頭)	18目標	7	最終目標		
		18実績		19目標	7	
		23目標	7	23実績		
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標		
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	人工林において、ヒノキの幼齢木などへのカモシカによる食害被害拡大を防止するため、長野県が定めた特定鳥獣保護管理計画(カモシカ)の捕獲計画に基づき個体数調整を行う事業併せて有害鳥獣捕獲許可関係や猟友会、有害鳥獣対策協議会事務を行っている。	カモシカ個体数調整業務委託(飯田市連合猟友会)	個体調整頭数	5
	18年度の実績			
		カモシカ個体数調整業務委託(飯田市連合猟友会)	個体調整頭数	7
				19年度計画

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他	200	210
一般財源	136	425	
事業費計(A)	336	635	
人件費	正規職員所要時間	18年度 350	19年度 350
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	1,252	1,252
	トータルコストA+B	1,588	1,887

特定財源内訳や補足事項	鳥獣飼養登録手数料
-------------	-----------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	出荷額を高める活動をする	林業生産額(億円)	現状値	7	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	7.5
		経済的自立度(%)	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標	60	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
木材生産のための造林木に対する、カモシカなどの野生獣の被害が増えすぎ、防除しても被害は減らないため、やむを得ず捕獲許可を申請し、個体数調整を行う必要が生じたため	有害鳥獣被害が年々拡大している。	

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 食害被害を減らすことにより、林業生産者の意欲の衰退を防ぎ、再造林や被害防除のための経費を減少させ、結果として木材生産量を上げることにつながる。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) (その理由) 忌避などによる防除対策にも経費的な面で限界があり、個体数を調整する方法は必要である。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) (その理由) カモシカの捕獲区域は10年生以下の造林地に限られるため、新たに植林された造林地の増減により、被害発生区域も変化する。植林地の減少や、被害の状況によっては縮小も有り得る。		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 野生獣の個体数が増加し、被害面積・地域の拡大がおり、さらに林業被害が増加する。それにより、林業生産者の意欲の衰退がおり、手入れ不足、森林の荒廃へとつながる。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 野生獣の食害被害は、林業生産者の意欲を衰退させ、森林の手入れ不足、荒廃などにつながる。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 野生獣による食害被害について社会性的一面や広域的政策を行うことが求められ、関与は必要である。カモシカ捕獲の計画・申請は市町村が行うことになる。		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由) 個体数調整する場合に必要な費用である。
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 森林所有者は防護柵や忌避剤などで被害防除対策をしているが、費用面で限界がある。食害被害に対し個体数調整を実施する場合は、市町村が年次計画を策定することになり、市町村が捕獲許可申請を行う。捕獲にかかる費用は市が負担している。

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	実施年度 <input type="text"/>	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 引き続き被害の状況を調査しながら、必要な箇所について個体数調整を行っていく。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法		

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	